

平成17年度研究発表会

九州大学 P and P 「生体防御を基盤とした先端医学」

8:55-9:00 開会の挨拶：原田実根

座長：吉開泰信

- 9:00-9:20 ○片山 勉、川上広宣、尾崎省吾（九大院・薬・分子生物）：大腸菌の染色体複製開始におけるDNA-タンパク質高次複合体のATP依存的活性化の分子機構
- 9:20-9:40 齋藤光正¹、○梶原英子²、吉田眞一²（九大院・医・小児科¹、九大院・医・細菌²）：劇症型A群レンサ球菌感染症のマウスモデルによる病態解明
- 9:40-10:00 ○大野真治、竹田誠、関文緒、田原舞乃、中津祐一郎、橋口隆生、皆川洋子、柳雄介（九大院・医・ウイルス）：麻疹ウイルスの病原性発現機構
- 10:00-10:20 ○黒瀬等（九大・院薬・薬物中毒）：心室筋細胞における活性酸素を仲介分子とする細胞内シグナリング
- 10:20-10:40 ○山本健二（九大院・歯・口腔機能分子科学）：エンドリソソーム系による細胞代謝と生体応答制御
- 10:40-10:50 *COFFEE BRAKE*

座長：續 輝久

- 10:50-11:10 ○續 輝久（九大院・医・基礎放射線医学）：Significance of error-avoiding mechanism for oxidative DNA damage incarcinogenesis」
- 11:10-11:30 ○小田義直、恒吉正澄（九大院・医・形態機能病理）：悪性骨軟部腫瘍および卵巣癌における多剤耐性関連蛋白およびYB-1蛋白発現
- 11:30-11:50 ○高田英俊、野村明彦、原 寿郎（九大院・医・成長発達医学）Innate immunityにおけるInterleukin-1 receptor-associated kinase 4の意義
- 11:50-13:00 昼休み 会議（コラボI 一階会議室）

座長：姫野國祐

- 13:00-13:20 ○牟田達史、山崎創、竹重公一朗（九大院・医・分子細胞生化学）：誘導型転写制御因子による自然免疫系の反応制御機構
- 13:20-13:40 ○福井宣規（九大・生医研・免疫遺伝）：免疫系特異的細胞骨格制御分子DOCK2の機能とシグナル伝達

- 13:40-14:00 ○吉開泰信、矢島俊樹（九大・生医研・感染制御）：細菌感染で誘導されるメモリーCD8細胞の産生・維持機構
- 14:00-14:20 ○姫野國祐（九大院・医・感染免疫・熱帯医学）：ユビキチンプロテアソーム系の応用による細胞内寄生原虫に対するDNAワクチンの開発：マラリアに対する2段階DNAワクチンの開発に向けて
- 14:20-14:40 ○井上 裕、森 正樹（九大・生医研・細胞機能制御学外科）：腫瘍特異性に応じた癌抗原ペプチドワクチンによる新規免疫療法の確立
- 14:40-15:00 ○原田実根、中野修治、馬場英司、長藤宏司、堀内孝彦、塚本浩、安部康信、牟田耕一郎（九大院・医・修復内科学）：治療抵抗性の悪性腫瘍および自己免疫疾患に対する造血幹細胞移植
- 15:00-15:20 *COFFEE BRAKE*

座長：西村純二

- 15:20-15:40 ○西村純二、白土基明、本村誠一（九大・生医研・免疫病態）：多発性骨髄腫に対するテロメラーゼを標的とした免疫細胞療法の開発
- 15:40-16:00 深川修司、中原剛士、○竹内聡、師井洋一、古江増隆（九大院・医・皮膚科）：GM-CSF+IFN-β誘導による樹状細胞（IFN-DC）の作成とIL-1β+IFN-γを用いたその成熟・活性化の検討
- 16:00-16:20 ○谷憲三朗、栗田良、横尾朋子、高杉香志也、井本英志（九大・生医研・ゲノム病態）、谷岡功邦、佐々木えりか（実央研・実験動物センター）：小型霊長類コモンマーマーモセットES細胞株の新規樹立と高効率血球分化誘導系の確立

座長：谷憲三朗

- 16:20-16:40 ○岡田貴充、田仲和宏、岩本幸英（九大院・医・整形外科）：多剤耐性骨肉腫・ユーイング肉腫に対するヒストン脱アセチル化酵素阻害剤の効果の検討
- 16:40-17:00 ○杉浦 剛、白砂 兼光（九大院・歯・顎顔面口腔外科学）：テトラスパニンCD82による癌細胞浸潤抑制機構の解析
- 17:00-17:20 ○加藤聖子、大神達寛、山口真一郎、浅野間和夫、和気徳夫（九大・生医研・ゲノム創薬・治療学分野）：発癌機構におけるRas 蛋白の役割の解明と治療法の開発
- 17:20-17:25 閉会の挨拶：原田実根
- 17:30-19:00 懇親会（サイエンスカフェ）